

セミナー（勉強会）参加の常識

一心豊かな生活を目指して

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

「教育ある人」とは、今までのことはさておきこれからの人生では①何歳になっても、勉強しつづければならないと自覚している人、②勉強することの明確な目標をもっている人、③どのように勉強するのか自分自身で勉強の仕方・方法を身につけている人を言う。

そこで今回は、社会に出た人たちが、様々なセミナー(勉強会)に参加する場合に心得ておいたらより効果の上がる勉強ができるに違いないと思われることをまとめてお伝えする。

2. 積極的な姿勢が何より

①どのようなセミナー(勉強会)に参加したらよいか。どのようにしてそれを見つけたらよいかの第一のテーマだ。

日本人の平均寿命は年々上昇し、女性の場合80歳をかなり超えてきた。もし、この「みにむ」をお読みの方が35歳であるとするなら、その方は95歳までは死ぬことが困難となるであろう。その位、今の30代の女性は自分自身の身体と精神の健康に気を使っている。また、脳の活性化のために様々な楽しいことや勉強になることに挑戦し続けている。人生が楽しく、頭脳を使い続け、心や身体の健康に人一倍敏感なのが現在の30代の女性だ。医学もますます進むだろうから、この方々は95歳まで死ぬことは難しい。95歳まであと60年生きなければならない。

そこで、もしあなたが35歳の女性であるとしたなら、95歳で寿命を全うするあと60年間を二つに分けて、65歳までの30年間と、残り95歳までの30年間どのように生きるかを考えて、そのための準備の勉強をしたらいいと思う。人生は65歳までがリハーサル、65歳からが本番。95歳までの準備を65歳までにすることが大事かと思う。

恐らく今の35歳の方々が65歳になる30年後は、少子化がさらに進み、税金も落ち込むと思われるので、今の65歳の方々のような福祉は受けられないと予測される。子どもたちも国際化が進むため国内にいることは今ほど多くないと思われる。配偶者である夫は先に他界するケースが多いであろうから、子どもや夫、社会の援助なしで、一人で20年間位は生きていかねばならないと容易に予測される。そのための準備学習を35歳の方々は今から30年かけて65歳まですべきだ。できれば、65歳を過ぎてからも95歳で死ぬまで現金収入があった方がいいので、そのための勉強を第一に考えるとよい。人生を楽しくするための勉強も考えた方がよい。脳を活性化させるための勉強も考えた方がよい。心身の健康を正常に近づけ続けるための勉強も考えた方がよい。英語はもちろんのこと、スペイン語や中国語の勉強も少しずつでもいいからやり続けるとコミュニケーションできる人達がぐっと広がる。

*これをお読みのあなたがもし25歳なら、65歳まであと40年あるのだから、もっともっと勉強できる。45歳の方はあと20年もある。55歳の方はあと10年しかないから、スピードを上げて準備をした方がよい。

問題は、あまり準備せずに65歳を迎えた方々だ。今からでも遅くないから、年など気に

しないで何にでもチャレンジして欲しい。何歳になっても自分のやりたいことに打ち込んでいる姿は、側からみていて美しいし尊敬に値する。1 ヶ月に 1 円でも現金収入を得ようと働く努力をし続ける 80 代、90 代の方々は最も素晴らしい。そのために勉強をし続けて欲しい。前置きが長くなったが、これからが本題。

②どこで、どのようなセミナー(勉強会)が開かれているかは、自分のやりたい勉強の内容がある程度明確であれば、探すのはそれほど難しくない。この「みにむ」にも講演会の案内は出ている。新聞にもずいぶん紹介されている。近くの公民館や商工会議所・商工会でも、市町村、栃木県や群馬県でも、大学や短大・専門学校でも公開講座は開かれている。各地の美術館や博物館も同様に勉強会は開かれている。銀行や信用金庫をはじめとする各種の経済団体、青年会議所やライオンズクラブ、ロータリークラブ、国際ソロプチミスト、幼小中高校の PTA や育成会、老人会などでもよく勉強会は開かれている。放送大学や NHK 学園などでも十分勉強は可能だ。新聞社や放送局などマスコミでも数多くの勉強会を開いている。

*自分の気に入った団体にいくつか所属し、そこで開かれている勉強会のうち、これまた気に入ったものがあれば進んで休まず出席するというのがおすすめの方法である。

私の場合、「栃木県経済同友会」と「群馬県経済同友会」に入らせて頂いているので、そこで開かれる催しにはできるだけ出席させて頂くようにしている。いつも出席させて頂いていると言葉を交す人も少しずつ増え、よい刺激になる。親しい人が何人かできると出かけるのも楽しく、おっくうでなくなる。

③会場には 30 分前に到着をし、今までの資料や当日配布される資料に目を通し、勉強会がスタートするまでに、頭をフル回転させて先生のお話しや会員同士の議論にスーッと入っていきける状況にしておくこと。

時間ギリギリに会場に飛び込んできたり、遅刻してくる方がよく見られるが、学習効果は 30 分前着席の人と比べ半分以下である。

*身体を使う習いごとをしている方は、各レッスンの前には少しでもいいから必ずおさらいをしてから臨むと「格段」に向上する。

*ディスカッション主体の勉強会も同様で、各参加者がそれまでの議論したメモを直前五分間でも見直すと、前回の続きから話し合いができる。思いつきのトンチンカンな議論もなくなり、時間の節約にもなり、レベルも上がるので、あきれて来なくなる人も減り、出席者も少しずつ増え、会も盛んになる。

④出席者の多い勉強会では、できるだけ最前列に近いところに着席すること。

人数が多く出席者が 50 名を超える場合、会場の後部に着席すると最前列着席と比べ、学習効果が半減以下になる。後部だと黒板や OHP の文字はよく見えないし、先生の顔もよく見えず、マイクなしの場合には音声も十分聴き取れないからだ。お隣り同士のヒソヒソ話しが、自分の席と講師の間あたりで行われた場合で、主催者が注意を怠っている場合などは、後部着席では学習効果がゼロに近くなる。

最前列に着席できれば、先生の口元まではっきり見え、音声も最もよく聴き取れ、あたかも講師が自分一人に話しかけてくれるように思えるほど、よく講演の内容がわかる。どんなささいなことまでも聴きもらすまいと耳を傾けたいなら、勇気をふるいおこし、最前列着席をお勧めする。

*いつも最前列に着席していると、先生も顔を覚えてくれて、終了後声を掛けて下さることも

多いし、また、顔見知りとなっているので、気軽に質問もしやすい。

前の方が空いていると講師は話しがしにくく、「白け鳥が飛ぶだけ」なので先生や主催者からは最前列着席は歓迎される。

⑤セミナーや勉強会の間は、必要なことはできるだけ「メモ」をとるとよい。メモをとるのは、そのへんの紙切れだとすぐなくしてしまうので、1冊ノートを用意する方がよい。

*「ノート」は一番大きなA版のものを使うと便利だ。「ハサミ」や「カッター」と「糊」や「ホチキス」を筆記用具入れの中に入れておき、配布された資料をどんどんノートに張り付けられるよう準備。その場で切り取り、張り付けると、後になって整理に手間取らず、資料も紛失することが少ない。最近の資料はB版ではなくてA版のことが多いので、ノートの中で一番大きなA版のノートをお使いになることをお勧めする。

*「テープ録音」するに値すると思われたら主催者の許可をもらった上で、最前列のスピーカーに一番近い席でテープに録音させて頂くとよい。

テープを何回も聴き直すよりは、メモしたノートを繰り返しじっくり読んだ方が深くものごとが考えられる。自動車の運転中に講演会のテープを聴くことは、聴かないよりはマシかもしれないが、じっくり腰を落ち着けてノートを取りながら聴き直すのと比べたら、学習効果は一ケタ少ないのではないかと思う。

*「ノート」や「メモ」「テープ」はセミナーや勉強会が終わった後、じっくり腰を落ち着けて考えるためにあるのだから、必ず「復習」を一両日中にすることをお忘れなく。また、時々その「ノート」を取り出して、考えることや調べ直したことがあれば、書き加えるとよい。スペースがなければ、一番大きなサイズの「ポスト・イット」やメモ用紙をそのページの上にどんどん貼り足すこともお忘れなく。

⑥セミナーや勉強会修了後は、サーとまつすぐに家に帰らないことが大事。よくわからないことがあれば会の終了後、講師先生に迷惑にならない範囲で質問するとよい。

もし、その内容に興味をもったら、「このことについて、もっと深く勉強したいのですが、どうしたらよいでしょうか」と先生に、より進んだ勉強方法について具体的に教えて頂くとよい。先生は自分の指導によって、その内容に興味をもってくれた教わり手を一番歓迎し、今日は教えに来てよかったと感動するはずだから、積極的にこの種の質問はさせて頂くとよい(この質問によりあなたの人生が変わるかも知れない)。

*もし、先生がお茶でもみんなで飲みませんか、とか、みんなで軽く食事でもどうですかと誘って下さったら、何をおいてもどんどん参加して、できるだけ先生の近くに着席、礼を失しないような形で、少しでも質問をさせて頂くとよい。また、皆さんが質問したり、先生がお話しするのをジーとお聴きするとよい。正式な場でのお話しと違い、お茶や食事中の話しは、より深くその講師や、その内容についての理解を深める場合が多い。「知的興奮状態」を生み、自分自身での勉強の励みになることも多い。

3. おわりにー「教育ある人」を目指して

少し大変かも知れないがコンピューターを買い込み、インターネットを利用すると、更に情報は入りやすくなる。1日中コンピューターの画面に向かっていることもないにせよ、1日に30分や1時間位はコンピューターに接し、情報を入力したり、整理すると同時に、こちらからも情報を発信することにも挑戦すると興味はつきないものと思う。

現在 20 代・30 代、もしかしたら 40 代の方々は、医学の進歩と栄養状態の改善、週休 2 日 1800 時間労働の達成のため 95 歳まで生きられる、逆に言うと死ねない状況に入りつつある。同時に、少子化による税収の落ち込みにより、95 歳の死ぬ寸前まで現金収入を得て生活せざるを得ない状況にも入りつつある。この二つの状況をふまえて、豊かな人生をまっとうするためには「自助努力」「自己責任の原則」のもとに、65 歳過ぎてから、明るく楽しく心豊かに生きるための勉強を 20 代、30 代、40 代、50 代からスタートさせなければならないと思う。

自分なりの目標をもち、自分なりの方法を身につけた上で、絶えず勉強しなければならないと自覚して、今日も明日も明後日も勉強し続ける、という意味での「教育ある人」をみんなで目指そうではありませんか。

がんばりましょう。